

令和7年度環境研究総合推進費における新規課題の採択について

令和7年3月14日(金)

環境研究総合推進費は、環境政策への貢献・反映を目的とした競争的研究資金制度です。「環境研究・環境技術開発の推進戦略」（令和6年8月環境大臣決定）に基づき、重点課題やその解決に資するテーマを提示した上で、広く産学民官の研究機関の研究者から提案を募り、応募された課題のうち、外部有識者等による事前評価を経て採択された課題について、研究開発を実施します。

令和7年度から開始する新規課題については、令和6年9月13日（金）から10月18日（金）まで公募を行い、審査の結果、今般、環境問題対応型研究・次世代事業45課題、革新型研究開発（若手枠）32課題、戦略的研究開発（Ⅰ）1プロジェクト（16課題）、戦略的研究開発（Ⅱ）1プロジェクト（10課題）を採択することとしましたのでお知らせします。

1. 令和7年度新規課題の採択について

令和7年度新規課題の公募は、「環境研究・環境技術開発の推進戦略」（令和6年8月環境大臣決定）（以下「推進戦略」という。）で示された5つの研究領域とそれらに対応する重点課題を対象に行い、外部有識者等からなる環境研究推進委員会（別添資料1参照）による第一次審査（書面）及び第二次審査（ヒアリング）を経て、下表の通り採択課題を決定しました。（採択課題の詳細は別添資料2の通り。）

※革新型研究開発（若手枠）は第二次審査（ヒアリング）を実施せず、第一次審査（書面）の結果に基づき採否を決定しました。

令和7年度新規課題の採択課題数（公募区分別）

公募区分	年間研究開発費の支援規模 (間接経費・消費税を含む)	研究期間	採択課題数 (申請件数)
環境問題対応型研究 (一般課題、技術実証型)	4,000万円以内/年	3年以内	23 (207)
環境問題対応型研究 (ミディアムファンディング枠)	2,000万円以内/年	3年以内	21 (133)
次世代事業(補助率1/2) ア. 「技術開発実証・実用化事業」 イ. 「次世代循環型社会形成推進技術 基盤整備事業」	ア. 1億円以内/年 イ. 2億円以内/年	3年以内	1 (5)
革新型研究開発(若手枠A)	600万円以内/年	3年以内	18 (67)
革新型研究開発(若手枠B)	300万円以内/年	3年以内	14 (38)
戦略的研究開発(Ⅰ)	3億円以内/年	5年以内	16 (17)
戦略的研究開発(Ⅱ)	1億円以内/年	3年以内	10 (10)

2. 採択課題の内訳

令和7年度新規課題の採択課題数（研究領域別）

研究領域名		統合	気候変動	資源循環	自然共生	安全確保
採択課題数		11 課題	13 課題	18 課題	14 課題	21 課題
(内訳)						
環境問題 対応型 研究	一般課題、 技術実証型	4	4	6	4	5
	ミディアム ファンディング枠	2	3	4	6	6
次世代 事業	ア. 技術開発実 証・実用化事業	0	0	1	0	0
革新型 研究開 発	若手枠 A	3	3	4	3	5
	若手枠 B	2	3	3	1	5

・「環境問題対応型研究」については5つの研究領域において44課題を、「次世代事業」については、1つの領域において1課題を採択しました。

・「革新型研究開発（若手枠）」については、一定の採択枠を設けて公募を行い、5つの研究領域において32課題を採択しました。

令和7年度新規課題の採択課題数（戦略的研究開発）

	プロジェクト名	採択数
戦略的研究開 発（Ⅰ）	S-24「気候変動適応の社会実装に向けた総合的研究」	16 課題
戦略的研究開 発（Ⅱ）	SⅡ-12「環境中における薬剤耐性と抗微生物剤の監視の枠組構築に向けた研究」	10 課題

・戦略的研究開発（Ⅰ）（Ⅱ）については、S-24「気候変動適応の社会実装に向けた総合的研究」、SⅡ-12「環境中における薬剤耐性と抗微生物剤の監視の枠組構築に向けた研究」のプロジェクトを構成する26課題を採択しました。

【参考情報：公募区分について】

(1) 環境問題対応型研究（一般課題）

個別又は複数の環境問題の解決に資する研究プロジェクトです。想定される研究成果により環境政策への貢献が期待できる研究課題を広く公募しました。

(2) 環境問題対応型研究（技術実証型）

基本的な仕組みや目的は、上記（1）の環境問題対応型研究（一般課題）と同様ですが、技術開発を目的とする課題について、基礎、応用研究によって得られた技術開発成果の社会実装を目指して、当該技術の実用可能性の検証等を行う研究課題を公募します。過去に採択された環境問題対応型研究によって得られた技術開発成果の社会実装を目指して、再度、技術実証型に応募することも可能です。推進費以外の研究によって得られた技術開発成果をもって応募することも可能です。

(3) 環境問題対応型研究（ミディアムファンディング枠）

基本的な仕組みや目的は、上記（1）の環境問題対応型研究（一般課題）と同様ですが、自然科学分野から人文社会科学分野まで多様な分野からの研究提案、若手研究者からの研究提案など、より多くの研究提案に機会を提供することを目的として設置した申請枠で、研究開発費の年間支援規模が全研究期間 2,000 万円/年以内の規模で研究を実施する課題を対象として公募を行いました。

(4) 次世代事業

環境問題対応型研究で得られた技術開発又は推進戦略において重点的に取り組むべき課題の解決に資する技術開発であって、産学連携等により、実証・実用化を図る事業です。

全ての研究対象領域における事業を対象とした「ア.技術開発実証・実用化事業」と、資源循環領域のうち、廃棄物の安全かつ適正な処理、循環型社会の形成推進に関する「イ.次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の公募を行いました。

(5) 革新型研究開発（若手枠A）

人文・社会科学分野を含む多様な分野の若手研究者の育成支援及び活躍促進を一層図るため、新規性・独創性・革新性に重点を置いた、若手研究者からの提案を公募しました。

研究開発費の年間支援規模は、全研究期間 600 万円 /年以内となります。

なお、研究代表者及び分担者の全員が「令和7年4月1日時点で40歳未満であること」、または「令和7年4月1日時点で博士の学位取得後8年未満であること」を要件としました。

(6) 革新型研究開発（若手枠B）

基本的な仕組みや目的は、上記（5）の革新型研究開発（若手枠A）と同様ですが、若手研究者への支援をより一層強化するために、研究機会を提供するという観点から設置した申請枠です。研究開発費の年間支援規模が 300 万円/年以内の規模で研究を実施する課題を対象として公募を行いました。

(7) 戦略的研究開発 (I、II)

戦略的研究開発では、環境省が研究プロジェクトを構成する研究テーマを提示し、各テーマを構成するにふさわしい研究課題(サブテーマ)を公募します。

このうち、戦略的研究開発(I)は、研究期間5年以内で、先導的に重点化して進めるべき、または先導的な成果を上げることが期待される統合的な大規模研究開発プロジェクトです。

戦略的研究開発(II)は、環境省が提示した戦略研究テーマを構成する研究課題のうち、特に短期間(3年以内)で重点的に進めるべき中規模の研究プロジェクトです。

○環境再生保全機構ホームページ「環境研究総合推進費サイト」

<https://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/>

環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室

代表 03-3581-3351

直通 03-5521-8239

室長 奥村 暢夫

室長補佐 相澤 絵美

係長 蒔田 尚典

独立行政法人環境再生保全機構

環境研究総合推進部研究推進課

直通 044-520-9509

課長 富永 貴寿

課長代理 小林 優

主査 生駒 智

係員 飯塚 麻友

令和6年度環境研究推進委員会

委員

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 石井 実 | 大阪府立大学 名誉教授
大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長 |
| 今村 隆史 | 東京都環境公社東京都環境科学研究所 所長 |
| 植松 光夫 | 埼玉県環境科学国際センター 総長
東京大学 名誉教授 |
| ○ 酒井 伸一 | 京都大学 名誉教授
京都高度技術研究所 副所長 |
| 竹中 千里 | 名古屋大学 名誉教授 |
| 田中 宏明 | 京都大学 名誉教授
信州大学 特任教授 |
| 中島 映至 | 東京大学 名誉教授 |
| ◎ 藤江 幸一 | 千葉大学 理事（研究担当） |
| 古米 弘明 | 中央大学研究開発機構 機構教授
東京大学 名誉教授 |
| 松藤 敏彦 | 北海道大学 名誉教授 |

（以上10名。五十音順。◎は委員長、○は副委員長）

令和6年度環境研究推進委員会（統合部会）

委員

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 石井 実 | 大阪府立大学 名誉教授
大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長 |
| 今村 隆史 | 東京都環境公社東京都環境科学研究所 所長 |
| ○ 植松 光夫 | 埼玉県環境科学国際センター 総長
東京大学 名誉教授 |
| 甲斐沼 美紀子 | 地球環境戦略研究機関 研究顧問 |
| 酒井 伸一 | 京都大学 名誉教授
京都高度技術研究所 副所長 |
| 白山 義久 | 京都大学 名誉教授 |
| 竹中 千里 | 名古屋大学 名誉教授 |
| 田中 宏明 | 京都大学 名誉教授
信州大学 特任教授 |
| 中島 映至 | 東京大学 名誉教授 |
| ◎ 藤江 幸一 | 千葉大学 理事（研究担当） |
| 古米 弘明 | 中央大学研究開発機構 機構教授
東京大学 名誉教授 |
| 本郷 尚 | 株式会社三井物産戦略研究所 国際情報部 シニア研究フェロー |
| 松藤 敏彦 | 北海道大学 名誉教授 |

（以上 13 名。五十音順。◎は主査、○は副主査）

令和6年度環境研究推進委員会（気候変動部会）

委員

- 伊香賀 俊治 慶應義塾大学 名誉教授
一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター 理事長
- 植松 光夫 埼玉県環境科学国際センター 総長
東京大学 名誉教授
- 小川 芳樹 東洋大学 名誉教授
- 笠井 康子 東京科学大学 環境・社会理工学院融合理工学系地球環境共創コース
教授
情報通信研究機構 Beyond5G 研究開発推進ユニット テラヘルツ研究セ
ンター 研究統括
- 鬼頭 昭雄 元 気象庁気象研究所 気候研究部長
- 高薮 縁 東京大学 名誉教授
- 田中 充 法政大学 名誉教授
法政大学 地域研究センター 客員教授
- ◎ 中島 映至 東京大学 名誉教授
- 永田 豊 電力中央研究所 研究アドバイザー
- 古米 弘明 中央大学研究開発機構 機構教授
東京大学 名誉教授
- 見山 謙一郎 昭和女子大学 人間社会学部現代教養学科 教授

(以上 11 名。五十音順。◎は主査、○は副主査)

令和6年度環境研究推進委員会（資源循環部会）

委員

- | | |
|---------|---|
| 池 道彦 | 大阪大学大学院 教授 |
| 石川 雅紀 | 神戸大学 名誉教授
広島県立大学叡啓大学 特任教授 |
| 梅田 靖 | 東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 教授 |
| ◎ 酒井 伸一 | 京都大学 名誉教授
京都高度技術研究所 副所長 |
| 佐藤 久子 | 愛媛大学理学部 研究員（プロジェクトリーダー）
愛媛県環境創造センター 所長 |
| 新熊 隆嘉 | 関西大学 経済学部 教授 |
| 高見澤 一裕 | 岐阜大学 名誉教授
愛知文教女子短期大学 特任教授 |
| 中村 崇 | 東北大学 名誉教授 |
| 藤吉 秀昭 | 日本環境衛生センター 副理事長 |
| ○ 松藤 敏彦 | 北海道大学 名誉教授 |
| 三浦 浩之 | 広島修道大学 国際コミュニティ学部地域行政学科 教授 |
| 守富 寛 | 岐阜大学 名誉教授
守富環境工学総合研究所 所長 |
| 山本 和夫 | いであ株式会社 監査役
東京大学 名誉教授 |

(以上 13 名。五十音順。◎は主査、○は副主査)

令和6年度環境研究推進委員会（自然共生部会）

委員

- 石井 信夫 東京女子大学 名誉教授
- 石井 実 大阪府立大学 名誉教授
大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
- 梶 光一 兵庫県森林動物研究センター 所長
- 可知 直毅 東京都立大学 学長特任補佐
- 小池 孝良 北海道大学大学院 農学研究院 研究員
北海道大学 名誉教授
- 木暮 一啓 琉球大学 理事・副学長
- 下村 彰男 國學院大學 観光まちづくり学部観光まちづくり学科 教授
- 白山 義久 京都大学 名誉教授
- ◎ 竹中 千里 名古屋大学 名誉教授
- 土屋 俊幸 林業経済研究所 所長
東京農工大学 名誉教授
- 中村 太士 北海道大学 名誉教授
- 星野 一昭 元 鹿児島大学 特任教授
- 八木 信行 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

（以上 13 名。五十音順。◎は主査、○は副主査）

令和6年度環境研究推進委員会（安全確保部会）

委員

- 浅見 真理 国立保健医療科学院 上席主任研究官
- 有菌 幸司 熊本大学 薬学教育部 特任教授
- 今村 隆史 東京都環境公社東京都環境科学研究所 所長
- 鶴野 伊津志 九州大学 名誉教授
- 楠井 隆史 富山県立大学 名誉教授
- 小泉 昭夫 京都大学 名誉教授
京都保健会 社会健康医学福祉研究所 所長
- ◎ 田中 宏明 京都大学 名誉教授
信州大学 特任教授
- 遠山 千春 東京大学 名誉教授
- 中井 里史 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
- 野口 泉 北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所 環境保全部 水環境保全G 専門研究員
- 平田 健正 和歌山大学 名誉教授
- 藤江 幸一 千葉大学 理事（研究担当）
- 松井 佳彦 北海道大学 名誉教授
早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 研究院客員教授
- 三浦 和彦 東京理科大学 嘱託教授
- 吉永 淳 東洋大学 生命科学部生命科学科 教授
国立環境研究所 連携研究グループ長（環境リスク・健康領域）

（以上 15 名。五十音順。◎は主査、○は副主査）

令和6年度環境研究推進委員会
(S-24 戦略研究プロジェクト専門部会)
委員

- 伊香賀 俊治 慶應義塾大学 名誉教授
(一財)住宅・建築SDGs推進センター 理事長
- 奥 真美 東京都立大学 都市環境学部都市政策科学科 教授
- 鬼頭 昭雄 元 気象庁気象研究所 気候研究部長
- 高薮 縁 東京大学 名誉教授
- ◎ 古米 弘明 中央大学研究開発機構 機構教授
東京大学 名誉教授
- 堀江 正知 産業医科大学 産業生態科学研究所 教授
産業医科大学 副学長
- 増本 隆夫 秋田県立大学 生物資源科学部 教授
- 松田 裕之 横浜国立大学総合学術高等研究院 特任教員(教授)/上席特別教授
- 松本 光朗 近畿大学 農学部環境管理学科 教授
近畿大学アグリ技術革新研究所 教授
- 見山 謙一郎 昭和女子大学 人間社会学部現代教養学科 教授

(以上10名。五十音順。◎は主査、○は副主査)

令和7年度環境研究総合推進費新規採択研究課題
環境問題対応型研究・次世代事業・革新型研究開発（若手枠）

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
統合領域（統合部会）			
重点課題 【重点課題】持続可能な社会の実現に向けたビジョン・理念の提示及びその実現 【重点課題】環境・経済・社会の統合的向上 【重点課題】ネット・ゼロ、循環経済、ネイチャーポジティブの統合的な実現 【重点課題】災害・事故に伴う環境問題への対応 【重点課題】グローバルな課題の解決及び国際協調・国際競争力の強化			
環境問題対応型研究（一般課題、技術実証型）			
1-2501	県外最終処分・再生利用のシナリオ及び候補地選定プロセスに関する社会受容性の評価および深化に関する研究	保高 徹生	（国研）産業技術総合研究所
1-2502	タイヤ摩耗粉塵の河川・海洋流出量の精緻な推計と、それに基づく生態リスクの評価と低減に係る研究	仲山 慶	愛媛大学
1-2503	環境価値評価と経済モデリングを用いた「自然資本金」の開発	栗山 浩一	京都大学
1-2504	サステナビリティトランスフォーメーションとローカルSDGsに関する研究	川久保 俊	慶應義塾大学
環境問題対応型研究（メディアムファンディング枠）			
1MF-2501	ARIESエコシステムサービス評価モデルと連携した再生可能エネルギー発電適地総合評価手法に関する研究	林 希一郎	名古屋大学
1MF-2502	地域特性を生かした脱炭素戦略づくりのための多面的な社会シナリオ分析	丸山 康司	名古屋大学
革新型研究開発（若手枠A・B） RA：年間支援規模600万円以内、RB：年間支援規模300万円以内			
1RA-2501	環境中の薬剤耐性菌の存在実態調査で微生物ゲルクマターにも焦点を当てられる培地の開発	星子 裕貴	北里大学
1RA-2502	ブロックチェーン技術を利用した保全活動の自助自立型の経済基盤構築	小川 浩太	九州大学
1RA-2503	Ce-NF配合型ハイブリッド接着接合技術の開発とその信頼性評価	荒川 仁太	岡山大学
1RB-2501	ESDコンピテンシーの獲得と行動変容のための評価フレームワークの構築	佐々木 織恵	国立社会保障・人口問題研究所
1RB-2502	「修理する権利」論：循環経済に向けたイノベーション・市場・環境に関する各制度の役割分担論の構築と研究チーム・ビルディング	橘 雄介	福岡工業大学

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
気候変動領域（気候変動部会）			
重点課題 【重点課題】 気候変動緩和策 【重点課題】 気候変動適応策 【重点課題】 地球温暖化現象の解明・予測・対策評価 本領域における研究・技術開発は、特定の産業の発達、改善、調整を目的としているものではありません。			
環境問題対応型研究（一般課題、技術実証型）			
2-2501	主要SLCF排出インベントリの精緻化及びトップダウン推計比較による高精度化	谷本 浩志	（国研）国立環境研究所
2-2502	気候変動による食糧生産への損失と損害のグローバルリスク評価	増富 祐司	（国研）国立環境研究所
2-2503	化石燃料起源二酸化炭素排出量グリッドデータ開発と地上観測による精度評価研究	齊藤 誠	（国研）国立環境研究所
2-2504	山地から海岸までの土砂動態および流域地形に及ぼす気候変動の中長期的な影響評価技術の開発と適応策の提案	有働 恵子	東北大学
環境問題対応型研究（メディアムファンディング枠）			
2MF-2501	木質飼料の積極的デザインによる牛肉生産からのGHG低減戦略	福岡 直希	帯広畜産大学
2MF-2502	気候変動に対する生態系機能のレジリエンス評価手法の開発	野田 響	（国研）国立環境研究所
2MF-2503	気候変動予測のための速くて正確なエアロゾル雲相互作用モデル開発	梶野 瑞王	気象庁気象研究所
革新型研究開発（若手枠A・B） RA：年間支援規模600万円以内、RB：年間支援規模300万円以内			
2RA-2501	Emergent Constraintsとしてのデータ同化による気候変化予測不確実性低減	岡崎 淳史	千葉大学
2RA-2502	省エネ化・温室効果ガス排出削減を可能にする次世代超軽量固体冷媒の開発	許 勝	東北大学
2RA-2503	広域に拡大する熱帯林伐採が引き起こす森林から劣化植生へのレジームシフト：データ駆動型モデルを活用した温暖化緩和機能の総合評価	森 大喜	（国研）森林研究・整備機構
2RB-2501	気候変動影響を考慮した「適応型土地利用シナリオ」の構築と緩和・適応効果の評価	山崎 潤也	名古屋大学
2RB-2502	メタン燃焼に有効な活性金属カチオンのバーチャルスクリーニング	安村 駿作	東京大学
2RB-2503	アミン系固体吸収材を用いた二酸化炭素直接空気回収技術の開発加速のためのプロセスモデルの基盤構築	磯谷 浩孝	早稲田大学

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
資源循環領域（資源循環部会）			
重点課題 【重点課題】 地域循環共生圏形成に資する廃棄物処理システムの構築 【重点課題】 ライフサイクル全体での徹底的な資源循環 【重点課題】 社会構造の変化に対応した持続可能な廃棄物の適正処理の確保			
環境問題対応型研究（一般課題、技術実証型） G：技術実証型			
3-2501	フィルム型ペロブスカイト太陽電池の前処理を主軸としたリサイクルプロセス提案および易解体設計へのフィードバック	所 千晴	早稲田大学
3-2502	鉄道業界で発生する使用済みケーブルの湿式剥離技術開発およびリサイクルプロセス設計	熊谷 将吾	東北大学
3-2503	革新省エネ分離技術による廃水からの希少資源循環	根岸 雄一	東北大学
3G-2501	混紡繊維の分別・リサイクル技術の開発	宇山 浩	大阪大学
3G-2502	ポリオレフィン系プラスチックのケミカルリサイクル技術の実証開発	田村 正純	大阪公立大学
3G-2503	成長志向型プラスチック資源循環技術の実用化を促進する多面的実証	矢野 浩之	京都大学
環境問題対応型研究（ミディアムファンディング枠）			
3MF-2501	PFAS含有廃棄物等に対する適正リサイクル技術・システムの構築に関する研究	倉持 秀敏	（国研）国立環境研究所
3MF-2502	深層学習を活用した変動リサイクルポイント・システムの構築	佐藤 正弘	東北大学
3MF-2503	サーキュラー・エコノミー型ビジネス実現のための転換シナリオ設計に関する研究	木下 裕介	東京大学
3MF-2504	高純度廃プラスチックの物性構造相関解明とスパイラルアップリサイクル	白須 圭一	東北大学
次世代事業			
3J-2501	現場ニーズに立脚した分別・収集運搬・選別プロセスにおけるAI・ロボティクスソリューションの実用化開発	小野田 弘士	早稲田大学
革新型研究開発（若手枠A・B） RA：年間支援規模600万円以内、RB：年間支援規模300万円以内			
3RA-2501	生分解性バイオベース高吸水性ポリマーの開発	菅原 章秀	大阪大学
3RA-2502	資源循環に資する新規コピキタス金属錯体の光機能化	小川 知弘	九州大学
3RA-2503	光加熱によるバイオガスからのワンパス低級炭化水素合成	山本 旭	京都大学
3RA-2504	炭素貯留と化学肥料代替の両効果を備えたALLバイオ炭成型肥料の開発	伊藤 貴則	北海道大学
3RB-2501	機械学習を活用した光計測、解析技術に基づく再生プラスチックの異材混入を想定した非破壊物性評価法の開発	中西 篤司	浜松ホトニクス株式会社
3RB-2502	剪断誘起メカノケミカル法を用いた新規バイオマス変換システムによる古紙からの乳酸製造	森 武士	（地独）北海道立総合研究機構
3RB-2503	高強度リサイクル炭素繊維強化複合材の創成と宇宙機用サンドイッチ材への応用	小野寺 壮太	九州大学

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
自然共生領域（自然共生部会）			
重点課題 【重点課題】生物多様性の保全に資する科学的知見の充実や対策手法の技術開発 【重点課題】生態系サービスの持続的な利用やシステム解明			
環境問題対応型研究（一般課題、技術実証型）			
4-2501	小笠原地域における外来ネズミ類の根絶手法の開発	片山 雅史	（国研）国立環境研究所
4-2502	ツキノワグマの出没メカニズム解明の高度化と出没リスクの管理手法の開発	大西 尚樹	（国研）森林研究・整備機構
4-2503	希少淡水魚の網羅的系統維持と効果的再導入を可能とする生殖幹細胞の増殖・保存を基盤とした革新的生息域外保全技術の開発	太田 耕平	九州大学
4-2504	絶滅危惧鳥類のウイルス感受性に対する高病原性鳥インフルエンザウイルス変異の影響評価	大沼 学	（国研）国立環境研究所
環境問題対応型研究（メディアムファンディング枠）			
4MF-2501	特定外来生物キョンの関東平野への分布拡大阻止に向けた監視および早期防除システムの開発	亘 悠哉	（国研）森林研究・整備機構
4MF-2502	ツキノワグマの資源利用の流動性に基づく出没要因の解明と出没防止対策の開発	横山 真弓	兵庫県立大学
4MF-2503	特定第二種水生昆虫の保全手法および簡易モニタリング法の確立	大庭 伸也	長崎大学
4MF-2504	機械観測と市民参加型調査のシナジーをもたらす生物多様性音響観測支援システムの構築	吉岡 明良	（国研）国立環境研究所
4MF-2505	エビジェネティックロックと環境DNAに基づく魚類個体群の年齢構成・繁殖推定	荒木 仁志	北海道大学
4MF-2506	土壌生態系のネイチャーポジティブに向けた大型土壌動物の定量情報再構築と生態系サービスの解明	角田 智詞	福井県立大学
革新型研究開発（若手枠A・B） RA：年間支援規模600万円以内、RB：年間支援規模300万円以内			
4RA-2501	小笠原における枯死植物利用昆虫の種多様性・種間相互作用の解明	吉田 貴大	東京都立大学
4RA-2502	画像解析による魚類群集定量モニタリング法の開発	石川 昂汰	東北大学
4RA-2503	隧道土壌中環境DNAによるモグラ類分布の網羅的調査と保全調査戦略の革新	今井 啓之	山口大学
4RB-2501	駆除されたスズメバチ類の巣を利用した生物相モニタリングの評価と開発	佐賀 達矢	神戸大学

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
安全確保領域（安全確保部会）			
重点課題 【重点課題】化学物質等の包括的なリスク評価・管理の推進 【重点課題】大気等の環境管理・改善のための対策技術の高度化及び評価・解明 【重点課題】水・土壌等の環境管理・改善のための対策技術の高度化及び評価・解明			
環境問題対応型研究（一般課題、技術実証型）			
5-2501	数値モデル、現地調査、衛星計測を統合した黄砂の中期予測、経済影響評価手法及び発生源対策立案手法の開発	弓本 桂也	九州大学
5-2502	豊かな瀬戸内海の実現に向けた最適栄養塩濃度の推定 -播磨灘を例として-	森本 昭彦	愛媛大学
5-2503	環境動態モデルと実測による規制・未規制PFASの包括的な水道水源水質管理戦略と水質監視手法の構築	大野 浩一	(国研) 国立環境研究所
5-2504	多様化する化学物質リスクへの対応と持続的な環境監視に資するダイオキシン類分析法の開発	橋本 俊次	(国研) 国立環境研究所
5-2505	蓄積リンを新たな水質指標としたサンゴ礁保全に向けた陸域負荷低減戦略	安元 純	琉球大学
環境問題対応型研究（メディアムファンディング枠）			
5MF-2501	大気アンモニアの常時監視と移動観測に適した測定器の開発	長田 和雄	名古屋大学
5MF-2502	PFASの排出源推定と分布予測を可能とする広域地下水流動モデルの創出	細野 高啓	熊本大学
5MF-2503	PFASの魚類に対する有害性・蓄積特性の評価とその予測手法の開発	石橋 弘志	愛媛大学
5MF-2504	大気中マイクロプラスチックの生体影響推定・評価システムの構築に資する研究	友永 泰介	産業医科大学
5MF-2505	詳細な植物プロセスを組み入れた統合モデルによる森林のCO2吸収に対するオゾン影響の広域評価	渡辺 誠	東京農工大学
5MF-2506	水銀汚染地域における残留水銀の自然浄化能を考慮した運命予測とリスク評価	丸本 幸治	国立水俣病総合研究センター
革新型研究開発（若手枠A・B） RA：年間支援規模600万円以内、RB：年間支援規模300万円以内			
5RA-2501	アンモニア燃料船への適用を目指すブルシアンブルー型錯体からなる吸着材の新規合成方法	白田 初穂	(国研) 産業技術総合研究所
5RA-2502	廃水中の硝酸イオンの電気/光電気還元による高選択的なアンモニア製造	川脇 徳久	東北大学
5RA-2503	藻場環境の保全に資する光ファイバ海洋モニタリング技術の構築	細木 藍	秋田大学
5RA-2504	向精神薬の長期曝露がメダカおよびその次世代の行動に与える影響～AOPの観点から包括的なリスク評価を目指して～	高井 優生	九州大学
5RA-2505	塩類集積土壌での植物の生育に及ぼすフミン酸修飾活性炭の影響	中村 彩乃	秋田大学
5RB-2501	水中健康関連微生物のオールインワン検出手法の開発	鳥居 将太郎	東京大学
5RB-2502	毒性PFASに対して高感度センシング能を有する光応答性ナノ空間の創製	芳野 遼	東北大学
5RB-2503	次世代の大気汚染評価に向けた酸化鉄エアロゾルの継続的モニタリングおよび長期トレンド解明	土屋 望	京都大学
5RB-2504	水中のPFASを可逆的に吸脱着し高速で分解除去する触媒の開発と連続水処理プロセスへの展開	松本 光	九州大学
5RB-2505	水・大気の包括管理を可能にする革新的な窒素分析システムの開発と標準化	森久保 論	(地独) 東京都立産業技術研究センター

令和7年度環境研究総合推進費新規採択研究課題 戦略的研究開発()

S-24 気候変動適応の社会実装に向けた総合的研究 プロジェクトリーダー：脇岡 靖明((国研) 国立環境研究所)			
課題番号	テーマ名・サブテーマ名	テーマリーダー・サブテーマリーダー	所属機関
S-24-1	気候変動適応実践支援システムの構築と応用に関する研究	脇岡 靖明	(国研) 国立環境研究所
S-24-1(1)	気候変動適応実践支援システムの構築	脇岡 靖明	(国研) 国立環境研究所
S-24-1(2)	気候変動影響検出と原因特定に関する手法開発	渡邊 学	blue and tech株式会社
S-24-1(3)	気候変動適応のストーリーライン作成手法の開発	榎原 友樹	株式会社イー・コンサル
S-24-2	気候変動に対する地域単位の包括的な適応戦略の解析・創出	櫻井 玄	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構
S-24-2(1)	農業における適応策の広域的・包括的施策の評価と提案	櫻井 玄	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構
S-24-2(2)	河川洪水被害減少のための包括的適応策の評価と流域治水策の提案	風間 聡	東北大学
S-24-2(3)	森林管理・森林域害獣管理・土砂災害被害低減のための広域的・包括的適応策の評価と提案	中尾 勝洋	(国研) 森林研究・整備機構
S-24-2(4)	水産業における地域の特性に合わせた効果的な適応策オプションの評価と提案	木所 英昭	(国研) 水産研究・教育機構
S-24-3	都市域の気候変動リスク評価と適応戦略の解析	真砂 佳史	(国研) 国立環境研究所
S-24-3(1)	水供給における気候変動リスクと適応戦略の提案と評価	真砂 佳史	(国研) 国立環境研究所
S-24-3(2)	都市の規模に応じた洪水や海面上昇に対する適応戦略の提案と評価	横木 裕宗	茨城大学
S-24-3(3)	都市域熱環境の広域評価と緩和策を含む暑熱リスク低減策の提案と評価	高根 雄也	(国研) 産業技術総合研究所
S-24-4	適応の社会実装に向けた異なるステークホルダーレベルでの課題の抽出とソリューションの提案	栗栖 聖	東京大学
S-24-4(1)	市民等における適応リテラシーの評価と促進	栗栖 聖	東京大学
S-24-4(2)	地方公共団体の気候変動適応計画とそれに基づく具体施策の評価	村山 顕人	東京大学
S-24-4(3)	国レベルの法制度・政策の整理と提案	劔持 麻衣	関東学院大学
S-24-5	気候変動に伴う健康影響に関するデータ収集・データドリブンな解析	横堀 将司	日本医科大学
S-24-5(1)	熱中症アプリの開発と環境リスクデータの分析	横堀 将司	日本医科大学
S-24-5(2)	熱中症弱者(要配慮者)を対象とした環境リスク評価	神田 潤	帝京大学
S-24-5(3)	領域横断的・学際的熱中症環境リスク評価	島崎 淳也	関西医科大学

令和7年度環境研究総合推進費新規採択研究課題 戦略的研究開発()

S -12 環境中における薬剤耐性と抗微生物剤の監視の枠組構築に向けた研究 プロジェクトリーダー：本多 了(金沢大学)			
課題番号	テーマ名・サブテーマ名	テーマリーダー・サブテーマリーダー	所属機関
S -12-1	公共用水域における薬剤耐性の監視手法の確立	本多 了	金沢大学
S -12-1(1)	公共用水域モニタリングに適した薬剤耐性指標の比較と評価	本多 了	金沢大学
S -12-1(2)	薬剤耐性の総量把握を可能とする包括的マーカーの開発	春日 郁朗	東京大学
S -12-1(3)	ゲノム解析による水環境中の薬剤耐性指標細菌とヒト・動物由来株との関連性の把握	渡辺 幸三	愛媛大学
S -12-1(4)	水圏・土壌圏における薬剤耐性獲得ポテンシャルの定量的把握	佐野 大輔	東北大学
S -12-2	薬剤耐性の発生源から水圏への排出動態の把握	原本 英司	山梨大学
S -12-2(1)	水圏における薬剤耐性の排出源追跡手法の開発	原本 英司	山梨大学
S -12-2(2)	下水道・浄化槽から薬剤耐性の排出動態の把握	西村 文武	京都大学
S -12-2(3)	医療機関からの薬剤耐性の排出動態の把握	清 和成	北里大学
S -12-2(4)	畜産施設・農地からの薬剤耐性の排出動態の把握	井原 賢	高知大学
S -12-3	残留抗微生物剤の水生態系への影響評価	山本 裕史	(国研)国立環境研究所
S -12-3(1)	残留抗微生物剤の水生生物を用いた生態リスク評価	山本 裕史	(国研)国立環境研究所
S -12-3(2)	公共用水域への残留抗微生物剤の排出負荷量推計手法の開発	小林 憲弘	国立医薬品食品衛生研究所